

SUSE Linux Enterprise Server

10 SP1

www.novell.com

2007 4 17

クイックスタートガイド



クイクスタートガイド

All content is copyright © Novell, Inc.

保証と著作権

このマニュアルは、Novellの知的所有権で保護されています。このマニュアルを複製、コピー、または配布するには、本使用許諾契約の各条項に明示的に同意する必要があります。

このマニュアルは、以下の条件を満たす限り、電子的または印刷物などの形式で、自由に複製、コピー、配布することができます。

複製、コピー、配布されるコピーには、この著作権表示と作成者、貢献者名が明示的かつ弁別的に表示する必要があります。このマニュアルは、特に印刷形式の場合、非商用の目的でのみ複製、配布できます。本マニュアルの全部または一部を他の目的で使用する場合は、事前にNovell, Incから明示的な許可を得る必要があります。

Novellの商標リストについては、<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html>のNovell Trademark and Service Mark Listを参照してください。

Linuxは、Linus Torvaldsの登録商標です。他のすべての第三者の商標は、各所有者が所有権を有しています。商標記号（®、™など）は、Novellの商標を表しています。アスタリスク()は、サードパーティの商標を表します。

本書のすべての情報は、細心の注意を払って編集されています。しかし、このことは絶対に正確であることを保証するものではありません。Novell, Inc.、Suse Linux Products GmbH、著者、翻訳者のいずれも誤りまたはその結果に対して一切責任を負いかねます。

目次

序文	v
パート I x86、AMD64、Intel 64およびItaniumプロセッサファミリーへのインストール	1
1 インストールの考慮事項	3
1.1 インストールの種類	3
1.2 ブート方法	3
1.3 Installation Source	4
1.4 インストールターゲット	5
1.5 異なるインストール方法	5
2 インストール手順	7
2.1 ローカルの交換可能ドライブからのブート	7
2.2 ネットワーク上でのインストール	8
2.3 インストールのリモート制御	8
パート II IBM POWERへのインストール	9
3 インストールの考慮事項	11
3.1 インストールのタイプ	11
3.2 IPLオプション	12
3.3 Installation Source	13
3.4 インストールターゲット	13
3.5 インストールシステムへの接続	14

4	インストール手順	15
4.1	システム全体へのインストール	15
4.2	LPARへのインストール	16
 パート III IBM System zへのインストール		 19
5	インストールの考慮事項	21
5.1	インストールのタイプ	21
5.2	IPLオプション	22
5.3	Installation Source	22
5.4	インストールシステムへの接続の開始	23
 6	 インストール手順	 25
6.1	LPARインストール	25
6.2	z/VMのインストール	26

序文

このマニュアルでは、SUSE Linux Enterprise Serverのインストールについて簡単に説明しています。SUSE Linux Enterprise Serverでサポートされているプラットフォームのアプリケーションとインストールタイプに関するさまざまなフィールドの概要、およびインストール手順の簡単な説明について記載しています。

質の高いサービスも提供しています。エキスパートが、インストールまたは設定に関する質問への回答、信頼できるセキュリティアップデートの配布、開発プロジェクトのサポートなどを行います。

1 フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用して、コメントを入力してください。

2 追加のマニュアル

本製品に関連する他のマニュアルについては、<http://www.novell.com/documentation/sles10/index.html>を参照してください。

Architecture-Specific Information

SUSE Linux Enterprise Serverターゲットのインストールを準備するために必要な、アーキテクチャ固有の情報について説明しています。

Installation and Administration

SUSE Linux Enterprise Serverのインストールと管理の詳細を説明しています。

SUSE® Linux Enterprise Desktop製品で提供されているマニュアルの概要は、<http://www.novell.com/documentation/sled10/index.html>を参照してください。

3 マニュアルの表記規則

本書では、次の書体を使用しています：

- `/etc/passwd`:ファイル名およびディレクトリ名
- `placeholder:placeholder`は、実際の値で置き換えられます
- `PATH`:環境変数`PATH`
- `ls`、`--help`:コマンド、オプション、およびパラメータ
- `user`:ユーザまたはグループ
- **Alt**、**Alt + F1**:キー:押すためのキーまたはキーの組み合わせ、キーはキーボードと同様に、大文字で表示されます
- `[ファイル]`、`[ファイル] > [名前を付けて保存]`:メニュー項目、ボタン
- **▶ amd64 ipf**: この項は、指定されたアーキテクチャにのみ関連しています。矢印は、テキストブロックの先頭と終わりを示します。◀
- **▶ ipseries s390 zseries**: この項は、指定されたアーキテクチャにのみ関連しています。矢印は、テキストブロックの先頭と終わりを示します。◀
- *Dancing Penguins* (「*Penguins*」の章、↑他のマニュアル):他のマニュアル中の章への参照を表します。

パート I. x86、AMD64、Intel 64 およびItaniumプロセッサファミ リーへのインストール

インストールの考慮事項

この章では、x86、AMD64、Intel 64、およびItaniumハードウェア上にSUSE® Linux Enterprise Serverをインストールする前に決定するすべての事項についてまとめています。x86、AMD64、Intel 64、およびItaniumへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストールに関する現在のハードウェアおよびソフトウェア要件は、1枚目のCDまたはDVDの/docuディレクトリ内に収められている印刷可能なPDFドキュメントの『*Architecture-Specific Information*』に記載されています。

1.1 インストールの種類

通常、SUSE Linux Enterprise Serverは独立したオペレーティングシステムとしてインストールされます。Xenを導入することにより、同じハードウェア上に複数のインスタンスのSUSE Linux Enterprise Serverを実行することも可能になります。ただし、XenのDomain-0インストールの制御は、一般的なインストールと同様に、いくつかの追加パッケージを使用して行います。Xenのインストールについては、インストールシステムおよび1枚目またはDVDに収められている『*Installation and Administration*』に記載されています。

1.2 ブート方法

使用するハードウェアにより、SUSE Linux Enterprise Serverのインストールの前に行う最初のブート手順として次の各ブート方法があります。

表 1.1 ブートオプション

ブートオプション	使用方法
CDまたはDVDドライブ	最も簡単なブート方法です。このブート方法では、システムにローカルで使用可能なCD-ROMまたはDVD-ROMドライブが必要です。
フロッピーディスクまたはUSBディスク	1枚目のCDまたはDVD内の/bootディレクトリにあるブートディスク用のイメージを見つけます。同じディレクトリ内のREADMEも参照してください。コンピュータのBIOSでUSBメモリスティックからのブートがサポートされている場合は、USBメモリスティックからのブートのみが可能です。
PXEまたはbootp	使用するシステムのファームウェアまたはBIOSがサポートしている必要があります。このオプションには、ネットワーク内にブートサーバが必要です。このタスクは、別のSUSE Linux Enterprise Serverで実行できます。
ハードディスク	SUSE Linux Enterprise Serverは、ハードディスクからブートすることもできます。ハードディスクからブートするには、1枚目のCDまたはDVDの/boot/loaderディレクトリから、カーネル(linux)とインストールシステム(initrd)をハードディスクにコピーし、ブートルードに適切なエントリを追加します。

1.3 Installation Source

SUSE Linux Enterprise Serverをインストールするとき、実際のインストールデータがネットワーク、ハードウェアディスクパーティション、ローカルのCD-ROMまたはDVDで使用可能な状態である必要があります。ネットワークからインストールするには、インストールサーバが必要です。インストールデータを使用可能にするには、UNIXかLinux環境の任意のコンピュータをNFS、HTTPまたはFTPサーバとしてセットアップします。インストールデータをWindowsから使用できるようにするには、このデータをSMBを経由してリリースします。

ローカルネットワーク内の「SLPサーバ」を設定すると、インストールソースをさらに簡単に選択できるようになります。詳細については、4.2項「Setting Up the Server Holding the Installation Sources」(第4章 *Remote Installation*, ↑Installation and Administration)を参照してください。

1.4 インストールターゲット

インストールの多くは、ローカルのハードディスクに行われます。そのため、インストールシステムでハードディスクコントローラが使用できるようにする必要があります。RAIDコントローラなど特別なコントローラで他のカーネルモジュールが必要とされる場合、カーネルモジュールのアップデートディスクをインストールシステムに追加します。

このほか、オペレーティングシステムを実行するのに十分なディスク容量および速度を提供する、あらゆる種類のブロックデバイスがインストールターゲットになります。これには、iSCSIまたはSANのようなネットワークブロックデバイスなどがあります。標準のUNIXパーミッションを提供するネットワークファイルシステム上にインストールすることもできます。ただし、これらのネットワークファイルシステムは、実際のシステムを起動する前にinitramfsでサポートされる必要があるため、これらのシステムをブートするときに問題が発生する可能性があります。ネットワークファイルシステムへのインストールは、異なる場所で同一のシステムを起動する必要がある場合、または、ドメインの移行のようなXen機能を使用する必要がある場合に便利です。

1.5 異なるインストール方法

SUSE Linux Enterprise Serverでは、いくつかのインストールの制御方法があります。

- コンソールでのインストール
- シリアルコンソールを介したインストール
- AutoYaSTによるインストール
- SSHを介したインストール

- VNCによるインストール

デフォルトでは、コンソールが使用されます。多数の類似するコンピュータにインストールする必要がある場合、AutoYaST設定ファイルを作成し、インストールプロセスで使用できるようにすることをお勧めします。第5章 *Automated Installation* (↑*Installation and Administration*)のautoyast2に関するドキュメントも参照してください。

インストール手順

この章では、必須モードでSUSE® Linux Enterprise Serverのインストールを完了するのに必要な手順の概要について説明します。x86、AMD64、Intel 64、およびItaniumへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストールに関する詳細は、1枚目のCDまたはDVDの/docuディレクトリ内に収められている印刷可能なPDFドキュメントである『*Architecture-Specific Information*』に記載されています。『*Reference*』には、YaSTを使用してシステムをインストールおよび設定する方法についての詳細が含まれています。

2.1 ローカルの交換可能ドライブからのブート

インストールプロセスには、CD-ROM、フロッピードライブおよびUSBメモリスティックを使用できます。必要に応じてコンピュータを調整します。

1. ドライブが、BIOSでブート可能なドライブとして入力されていることを確認します。
2. ドライブにブートメディアを挿入し、ブート手順を開始します。
3. CD、DVD、フロッピー、またはUSBディスクのブートメニューを使用して、インストールシステムに異なるパラメータを転送できます。4.4.3頁「Using Custom Boot Options」(第4章 *Remote Installation*, ↑*Installation and Administration*)も参照してください。ネットワーク上でインストールを実行する必要がある場合は、この手順でインストールソースを指定します。

4. インストール中に予期しない問題が発生した場合は、セーフ設定を使用してブートします。

2.2 ネットワーク上でのインストール

ネットワークソースを使用してインストールを実行するにはインストールサーバが必要です。このサーバをインストールする手順は、4.2項「Setting Up the Server Holding the Installation Sources」(第4章 *Remote Installation*, ↑Installation and Administration)で説明されています。

SLPサーバが必要な場合、最初のブート画面でインストールソースとしてSLPを選択します。ブート手順中、使用可能なインストールソースから使用するものを選択します。

CDまたはDVDがネットワーク内で使用できる場合は、インストールソースとして使用します。この場合、ブートプロンプトでinstall=<URL>パラメータを適切な値とともに指定します。このパラメータの詳細については、4.4.3項「Using Custom Boot Options」(第4章 *Remote Installation*, ↑Installation and Administration)を参照してください。

2.3 インストールのリモート制御

リモートコンピュータからのインストールを制御するために、SSH経由のインストール、シリアルコンソール経由のインストール、およびVNC経由のインストールを行うためのオプションが用意されています。これらについては、『*Architecture-Specific Information*』で説明されています。このマニュアルは、1枚目のCDまたはDVDの/docuディレクトリ内に印刷可能なPDFとして収められています。

パート II. IBM POWERへのイン ストール

インストールの考慮事項

この章では、IBM POWERハードウェアへのSUSE® Linux Enterprise Serverのインストールを開始する前に決定するすべての事項についてまとめました。IBM POWERデバイスへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストールに関する現在のハードウェアおよびソフトウェア要件は、1枚目のCDの/docuディレクトリ内に収められている印刷可能なPDFドキュメントの第1章 *Requirements* (↑Architecture-Specific Information)に記載されています。

3.1 インストールのタイプ

SUSE Linux Enterprise Serverは、IBM POWERに対して、システム全体のインストールと、論理パーティション(LPAR)内へのインストールの2種類のインストール方法を提供しています。

iSeries

このタイプのコンピュータでは、LinuxはLPARにのみインストールできます。iSeriesのインストールには、インストールプロセス中の制御を可能にするtelnet接続が必要です。ネットワーク内のインストールサーバをインストールソースとして利用すると便利です。

pSeries

このタイプのコンピュータでは、Linuxはシステム全体にインストールできます。IBM pSeries p630、p655、p670およびp690では、LPARにLinuxをインストールすることもできます。これら2つのシステムは、パーティション作成することなく起動し、システム全体にインストールすることもできます(フルシステムパーティション)。インストールソースとして、CD-ROM

ドライブ、DVDドライブまたはネットワーク内のインストールサーバを使用できます。

eServer i5/p5、System i5/p5、OpenPower

Linuxは、システム全体(未管理モード)またはLPARにインストールできます。インストールソースとして、CD-ROMドライブ、DVDドライブまたはネットワーク内のインストールサーバを使用できます。

JS20 Blade、JS21 Blade

このタイプのコンピュータでは、Linuxはシステム全体(ブレード上)にインストールできます。インストールソースとして、CD-ROMドライブ、DVDドライブまたはネットワーク内のインストールサーバを使用できます。

IntelliStation、ATXワークステーションおよびサーバ

Linuxは、システム全体にインストールできます。インストールソースとして、CD-ROMドライブ、DVDドライブまたはネットワーク内のインストールサーバを使用できます。

3.2 IPLオプション

使用するハードウェアと選択したインストールタイプに応じて、SUSE Linux Enterprise Serverをインストールするときに次の初期IPLオプションを選択できます。

表 3.1 IPLオプション

IPLオプション	使用方法
CDまたはDVDドライブ	最も簡単なブート手順です。このブート手順では、システムにローカルで使用可能なCD-ROMまたはDVDドライブが必要です。
Network	SUSE Linux Enterprise Serverは、ネットワークからブートすることもできます。このブート手順では、1枚目のCDからブートサーバに適切なカーネル(suseboot/inst64またはISERIES64)をコピーする必要があります。ファームウェアまたはi5/OSで、ネットワークからブートするように選択できます。

3.3 Installation Source

SUSE Linux Enterprise Serverをインストールするには、ローカルネットワークか、ローカルコンピュータに搭載されているCD-ROMまたはDVDで、インストールファイルが必要です。LinuxかUNIXシステムをHTTP、NFSまたはFTPとして設定して、ネットワークソースを指定します。Windowsを実行するコンピュータからSMBを経由してインストールファイルを共有することもできます。

ローカルネットワークで「SLPサーバ」を設定すると、インストールソースを簡単に選択できるようになります。これは4.2.1項「Setting Up an Installation Server Using YaST」(第4章 *Remote Installation*, ↑Installation and Administration)で説明されています。

3.4 インストールターゲット

SUSE Linux Enterprise Serverは、IBM Power上の異なる大容量ストレージメディアにインストールできます。

iSeries

- DASD (ハードディスク)
- IBM iSeries仮想ディスク

pSeries

- DASD (ハードディスク)
- ファイバチャンネルを経由するSAN

eServer i5/p5、System i5/p5、OpenPower

- DASD (ハードディスク)
- 仮想SCSI
- ファイバチャンネルを経由するSAN

JS20 Blade、JS21 Blade

- ローカルハードディスク

IntelliStation、ATXワークステーションおよびサーバ

- ローカルハードディスク

3.5 インストールシステムへの接続

SUSE Linux Enterprise Serverでは、インストールシステムへの接続方法として、SSH、VNC、シリアルコンソール、およびスクリーンコンソールの4種類の方法から選択することができます。SSH、VNCまたは端末ソフトウェアのバージョンは、インストールシステムへの接続を開始するワークステーションを実行しているオペレーティングシステムによって異なります。

多くの同一パーティションまたはマシンをインストールする必要がある場合は、AutoYaST設定ファイルを作成することをお勧めします。AutoYaST設定ファイルを作成した後、インストールプロセスを実行できます。詳細については、5.2項「Rule-Based Autoinstallation」(第5章 *Automated Installation, Installation and Administration*)のAutoYaSTに関するドキュメントを参照してください。

インストール手順

この章では、SUSE® Linux Enterprise Serverを選択したモードでインストールするのに必要な手順の概要について説明します。IBM POWERへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストール準備に関する詳細は、1枚目のCDの/docuディレクトリにある印刷可能なPDFマニュアルを参照してください。YaSTのインストールと設定の詳細については、第3章 *Installation with YaST* (↑Installation and Administration) および第8章 *System Configuration with YaST* (↑Installation and Administration) を参照してください。

4.1 システム全体へのインストール

次の手順は、システム全体にインストールする場合に実行します。ここでは、ブレードセンター内の1つのブレードもシステム全体として見なします。

- 1 ハードウェア要件を確認します(1.1項「Hardware Requirements」(第1章 *Requirements*, ↑Architecture-Specific Information)も参照)。
- 2 ソフトウェア要件を確認します(1.2項「Software Requirements」(第1章 *Requirements*, ↑Architecture-Specific Information)も参照)。
- 3 CD-ROM、DVDまたはネットワークからのブートが可能になるようにシステムを適切にセットアップします。
 - pSeriesの場合は、2.2項「Preparing for Installation on an IBM pSeries Models」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照

してください。この手順は、ATXワークステーションおよびサーバにも適用されます(システム全体のインストールに関してのみ)。

- eServer i5/p5、System i5/p5およびOpenPowerの場合は、2.1項「Preparing for Installation on IBM eServer i5/p5, System i5/p5, and OpenPower Models」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
 - JS20またはJS21 Bladeの場合は、2.3項「Preparing an Installation on IBM JS20/JS21 Blades」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
- 4 CD-ROM、DVDまたはネットワークからインストールを開始します。2.2.3項「Setting Up the Installation Source」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
 - 5 ソフトウェアをインストールし、基本ネットワーク構成を実行します。第3章 *Installation with YaST* (↑Installation and Administration)も参照してください。

4.2 LPARへのインストール

- 1 ハードウェア要件を確認します。1.1項「Hardware Requirements」(第1章 *Requirements*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
- 2 ソフトウェア要件を確認します。1.2項「Software Requirements」(第1章 *Requirements*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
- 3 インストールプロセス用にVNCクライアントを準備します。4.1.1項「Simple Remote Installation via VNC—Static Network Configuration」(第4章 *Remote Installation*, ↑Installation and Administration)も参照してください。
- 4 ファームウェアまたはi5/OS側でシステムを準備します。
 - iSeriesの場合は、2.4項「Preparing an Installation on IBM iSeries Models」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。

- Pseries p630、p655、p670およびp690の場合は、2.2項「Preparing for Installation on an IBM pSeries Models」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
 - eServer i5/p5、System I5/p5およびOpenPowerの場合は、2.1項「Preparing for Installation on IBM eServer i5/p5, System i5/p5, and OpenPower Models」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
- 5 インストール中、システムにアクセスするためのクライアントを設定します。2.4.3項「Client for the Operation of the Installation Software」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
 - 6 iSeriesの場合は、IPLソースをi5/OS側でセットアップします。2.4.5項「IPL: Starting the NWSD (WRKCFGSTS *NWS)」(第2章 *Preparation*, ↑Architecture-Specific Information)も参照してください。
 - 7 ソフトウェアをインストールし、基本ネットワーク構成を実行します。第3章 *Installation with YaST* (↑Installation and Administration)も参照してください。

パート III. IBM System zへのイン ストール

インストールの考慮事項

この章では、IBM System zハードウェアへのSUSE® Linux Enterprise Serverのインストールを計画する場合に決定する必要があるすべての事項についてまとめました。IBM System zへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストールに関する現在のハードウェアおよびソフトウェア要件は、1枚目のCDの/docuディレクトリ内に収められている印刷可能なPDFドキュメントの『*Architecture-Specific Information*』に記載されています。

5.1 インストールのタイプ

SUSE Linux Enterprise Serverには、2種類のIBM System z用インストール方法があります。

LPARインストール

別の論理パーティション(LPAR)上にあるIBM System zにSUSE Linux Enterprise Serverをインストールすることにより、SUSE Linux Enterprise Serverで物理メモリの特定部分を使用できるようになります。さらに、使用するプロセッサの数を指定することもできます。このモードでは、1つのシステム上で複数のオペレーティングシステムを同時に実行させることも可能です。

z/VMへのインストール

z/VM(仮想マシン)モードは、z/VMでIBM System z用SUSE Linux Enterprise Serverをホストされているシステムとして実行します。このインストールタイプでは、z/VMでSUSE Linux Enterprise Serverを完全制御できるという利点があります。また、このインストールタイプでは、カーネル開発また

はカーネルベースのデバッグを行うのに便利です。Linuxシステムのハードウェア設定を変更するのが簡単です。数百のLinuxインスタンスを同時に実行できるため、ホストされているSUSE Linux Enterprise Serverシステムを作成するのも簡単です。

FCPがアタッチされたCD-ROMからのインストール

LPARまたはVMモードでは、FCPがアタッチされたCD-ROMをIPLに使用できます。インストールデータは、CD-ROMから直接に取り出されます。

5.2 IPLオプション

使用するハードウェアおよび選択したインストールタイプに応じて、SUSE Linux Enterprise Serverのインストール前の初期IPLに次のIPLオプションを使用できます。

表 5.1 IPLオプション

IPLオプション	スコープ
ESCON/FICONがアタッチされたテープ	いずれのインストールタイプでも使用できます。その唯一の要件は、テープライブラリユニットが使用できることです。
VMリーダー	VMモードで使用できます。必要なデータが、z/VMシステム(FTPなどを使用して)にすでに転送されている必要があります。
CD-ROMまたはサーバ	LPARで、IPLに使用できます。インストールデータをCD-ROMから直接に取り出したり、またはFTPを介してインストールシステムにロードしたりできます。

5.3 Installation Source

FCPがアタッチされたCD-ROMの場合、インストールデータはCD-ROMから読み取られます。その他のIPLオプションの場合は、インストールデータは内部

ネットワークで使えるようにする必要があります。UNIXまたはLinux環境では、NFSかFTPサーバとしてセットアップされているワークステーションにインストールデータを配置できます。インストールデータをWindowsワークステーションから使用できるようにするには、このデータをSMB共有上にリリースします。別の方法として、Windows用のFTPソフトウェアパッケージがいくつか存在しますが、問題が発生しないという保証はありません。

5.4 インストールシステムへの接続の開始

SUSE Linux Enterprise Serverでは、3つのインストールシステムへの接続方法があります。SSH、XまたはVNCのいずれかを選択します。インストールシステムへの接続を開始するワークステーションで実行されているオペレーティングシステムにより、これらのアプリケーションのバージョンは異なります。

インストール手順

この章では、任意のモードでSUSE® Linux Enterprise Serverのインストールを完了するのに必要な手順の概要について説明します。IBM System zへのSUSE Linux Enterprise Serverのインストール準備に関する詳細は、1枚目のCDの/docuディレクトリにある印刷可能なPDFドキュメントの『*Architecture-Specific Information*』を参照してください。YaSTを使用したシステムのインストールおよび設定の詳細については、『*Reference*』を参照してください。

6.1 LPARインストール

- 1 インストールの前に、初期IPLに適切なIPLオプションを選択します。LPARインストールの場合は、[*CD-ROM or Server*] または [*Tape*] を選択します。
- 2 FTPかSMBを使用するネットワークで、インストールメディアまたはそのデータが使用できることと、パスがYaSTからアクセスできることを確認します。
- 3 次のうちのいずれかを選択してください:
 - HMCを使用して、IPLをCD-ROMまたはサーバから準備します。
 - FTPを使用して、テープIPLカーネル、`parmfile`および初期RAMディスクをテープに転送し、IOCDSを介してテープドライブが使用できるようにします。

- 4 インストールシステムのIPLを実行します。
- 5 ネットワークを設定します。
- 6 インストールシステムへの接続タイプ(SSH、XまたはVNC)を選択し、接続を確立します。
- 7 YaSTを使用して基本インストールを開始します。
- 8 インストールシステムの最初のIPLを実行します。
- 9 インストールシステムに再接続し、YaSTを起動してインストールプロセスを続行し、SUSE Linux Enterprise Serverを設定します。

6.2 z/VMのインストール

- 1 インストールの前に、初期IPLに適切なIPLオプションを選択します。
z/VMのインストールの場合は、[*VMReader*] または [*Tape*] を選択します。
- 2 FTPかSMBを使用するネットワークで、インストールメディアまたはそのデータが使用できることと、パスがYaSTからアクセスできることを確認します。
- 3 z/VMでLinuxゲストを作成し、メモリを割り当て、希望のネットワーク接続を定義します。
- 4 次のうちのいずれかを選択してください:
 - FTPを使用して、z/VMのゲストにアクセス可能なミニディスクにVMリーダカーネル、*parmfile*および初期RAMを転送し、VMリーダのIPL用REXX起動スクリプトを作成します。
 - FTPを使用して、z/VMのゲストにアクセス可能なミニディスクにテープのIPLカーネル、*parmfile*および初期RAMを転送し、REXXスクリプトなどを使用してテープにこれらのファイルを転送します。

- 5** インストールシステムのIPLを実行します。
- 6** ネットワークを設定します。
- 7** インストールシステムへの接続タイプ(SSHまたはVNC)を選択し、接続を確立します。
- 8** YaSTを使用して基本インストールを開始します。
- 9** インストールシステムの最初のIPLを実行します。
- 10** インストールシステムに再接続し、YaSTを起動してインストールプロセスを続行し、SUSE Linux Enterprise Serverを設定します。

